

環境教育「まず、今できることから」

歴史に学ぶ

発行所：地域環境活性化協議会
編集者：代表幹事 高橋 賢一
連絡先：市民活動支援センター
尾張旭市渋川町三丁目5番地7
(渋川福祉センター内)
TEL 0561-51-2878

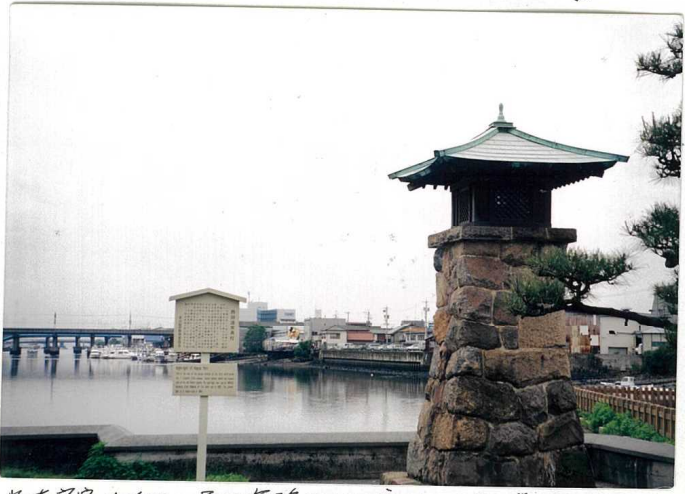


名古屋市の中心部を南北に貫く堀川は、名を変わらぬ歴史をもつ川だ。現在の堀川は庄内川から守山区瀬田で分岐し、熱田の地の西側に沿って南下、名古屋港へ注ぎ、延長16.2キロの河川で、名古屋港から猿段橋の

熱田宿と名古屋城を結ぶ堀川が、多古屋を大発展させた。



かつて堀川と中川運河は松連閘門を経つたが、ついでに舟運の減少を受けて今は土埋め工の計画



当時宿屋は桑名に至る海路(七里の渡し)船着き場であった。

段差(落差)を平たりにするの約1.6キロは潮の満ち引きの影響を受け、感潮区間となっていた。一級河川である庄内川から分岐しているため、堀川も(飯河川)の、いっぽう堀川は庄内川からの分岐後に矢野川を暗渠で横断してたり、少し高い位置(台地の斜面)を流れていくなど、おかしな点もある。これはもともと堀川が運河として掘られたためだ。

家康は、運河として堀川を開削し、水運を整備することで名古屋を大きく発展させるきっかけをつくらせた。堀川は当時の海岸線があった熱田から名古屋城まで掘られ、人の往来が可能になった。か穀物や海産物なども運ばれ、水、土、木材が大きな財源となった。



富士山が帽子をかぶる姿を巡り西京に葉隠寺を望む。

